

大芦小学校の今後のあり方に関する意見交換会 議事録

大芦小学校 図書室

令和7年2月26日(水) 16時30分～17時40分

【参加者数】

17人

大芦小学校在校生(1年・2年・3年)の保護者

【出席者】

教育総務課:松本課長・新井主査・堀主任

※箇所については、追記事項

【事務局説明】

市教育委員会では大芦小学校と吹上小学校の統合に関する適正配置等の計画について、審議会へ諮問し、令和4年8月26日に、審議会からの答申をいただいている。答申をいただいてから、これまで、意見交換会やあり方研究懇話会、意見書や提言書にて意見をいただいていた。

配付資料には、大芦小学校の通学区域とともに、これまでの児童数の推移と今後の見込みを掲載している。10年前の平成26年5月1日にちょうど150人いた児童数は、令和7年2月1日で107人と減少し、令和12年は58人と約1/3にまで減少する見込み。住民基本台帳上の数字であることから、この数字が変動することは大いに考えられる。特に令和11、12年度は不透明だが、これまで保護者の皆さんにも何度か資料を配付した中で、児童数の推移を掲載しており、入学の段階で、大きく児童数が増えるといったことは考えづらく、むしろ若干減ってしまう可能性もある。また、吹上小学校も同様に児童数の減少が想定されている。

このことから、教育委員会としては、現在と、将来に向けた子どもたちの教育環境を整えるために、令和4年度に審議会からいただいた答申を踏まえ、令和9年度までを予定年度とする計画のとおり吹上小学校との統合に向けて取り組みたいと考えている。

○2月25日の意見交換会の中で、統合が決まってからの流れと統合後の動き等について説明してもらいたいという意見をもらった質疑の前に話してもよい。

⇒(保護者)よい。

仮に、計画のとおり、令和9年4月1日の統合とする場合には、令和7年度中に議会承認をいただき、通学区域審議会という会議を開催して、大芦小学校の通学区域を吹上小学校とすることが妥当かどうか、審議をいただく。妥当となった場合には、吹上小学校と大芦小学校の統合に向けて、鴻巣市立小・中学校統合準備委員会を設置することとなる。

小谷小学校を例に説明すると、統合準備委員会では、両校の学校長をはじめとした教職員、PTAの代表、自治会長をはじめとした地域の代表等が、子どもたちがスムーズに学校に馴染んでいけるよう、交流授

業、通学班、通学路の安全確保、PTA 組織、閉校式典、記念誌、跡地の活用について検討している。

通学路の安全確保という面では、新たに、吹上小学校や箕田小学校に通学するにあたり、防犯灯の設置や、道路の整備、横断歩道の設置などを行っている。

跡地の活用については、笠原小学校や常光小学校は民間の活用といった地域からの意見に基づき対応しており、まだ活用が始まっていないが、小谷小学校については、保護者をはじめとした地域の皆さんから、民間活用ではなく、不登校支援や地域の方が、これまでどおり使えるような施設にしたいという希望もあったことから、教育支援センターとしての活用が決まっている。

これは、閉校に関する議会承認をいただいて以降、調整区域という制限がある中で、地域の方が積極的に実現可能な御意見を届けてくれた結果と考えている。

子どもたちへのアンケートについては、統合が決まった後に実施する。これまでは、全校朝会で、校長と教育委員会から子どもたちに対して閉校について伝えた後に、その時の率直な意見、気持ちを書いてもらっている。この時点では、当然に、寂しい、悲しいといった意見がほとんどなっていることから、その後、1年以上かけて、交流授業等を実施し、新たな学校生活のための準備をしている。

統合後、2か月すぎた6月頃に、児童と保護者にアンケートを行っている。これまで実施したアンケートの中では、子どもたちからは、友達が増えて楽しい、遊びの幅が広がったというような前向きな意見がほとんどで、子どもたちの順応性の高さが伺える良い結果となっている。

保護者についても、安心して子どもたちを送り出せているといった声が多くを占めている。これは、保護者が、閉校に伴う不安や負担が多い中で、約1年かけて、統合準備委員会等に主体的に関わっていく中で、徐々に不安感が薄れていったためではないかと考えている。

大芦小学校の統合が決まった際には、同じように、保護者や児童の不安をできる限り軽減できるよう、取組を進めていく。

【主な意見とその回答】

○（保護者）先生が変わってしまうことや友達と違うクラスになってしまうことを子どもたちは不安に感じている。大芦小学校の教職員は吹上小学校に異動してもらえるのか。

⇒（教育委員会）教職員の配置については、県が決定するものではあるが、教育委員会として要望を出すことで、配慮してもらえるものと考えている。

○（保護者）子どもに対する説明はいつ頃行われるのか。

⇒（教育委員会）議会承認後、子どもに対する説明を行った上で意見や気持ちを確認している。

○（保護者）議会での決定前に子どもたちへ確認はしないのか。

⇒学校が無くなるのは寂しいし、嫌だと思うのは当然であり、そのような結果になることは分かっている。決定前に子どもたちの気持ちを確認しても、そのような気持ちに向きあい、ケアをできる体制を整えることはできないため、なるべく不安な気持ちの期間を短くしたいと思い、議決前の確認はしていない。

しかし、大芦小学校においては、PTAにより児童アンケート等を実施していることから、早い段階で統

合に向き合うこととなっている。このことから、教育委員会としては、統合の時期や内容を早めに定め、不安な気持ちを早く解消したいと考えている。

○（保護者）統合が決まる前にアンケートを実施することも大切ではないか。

⇒子どもの意見を聞くといえば、聞こえはよいかもしれないが、学校の統合という重い課題を子どもたちに託すのは残酷なことであり、大人が責任をもって決定することが大切と考えている。

○（保護者）全員が徒歩という認識でよいか。

⇒（教育委員会）全地域が2km 圏内となるため、スクールバスは運行しない。

○（保護者）クラスの児童数について、少人数学級の良さをいかして、35 人の上限にしないという考えはないか。

⇒（教育委員会）35 人学級の基準は国で設けているものであり、鴻巣市として、この基準を変える考えはない。35 人学級については、1 学年の児童数が35 人の場合は、35 人で一クラスとなるが、36 人になった場合、18 人ずつの二クラスとなる。同様に70 人の場合は35 人ずつの二クラスとなるが、71 人になると、24 人・24 人・23 人の三クラスとなる。

結果として、市内の学校では、35 人の上限いっぱいとなっているクラスというのはほとんどない。

○（保護者）適正配置の計画については、新型コロナウイルス感染症の流行が始まる前から、取組が進められていたと思うが、コロナ禍を経て、変更された点はあるのか。

⇒（教育委員会）コロナ前後で計画の変更はない。コロナ等の感染症の対応は、適正配置等とは別に実施している。

○（保護者）統合することを前提とした意見交換会という理解でよいか。

⇒（教育委員会）はい。

○（保護者）統合を遅らせるということではなく、令和9 年度に閉校するという事でよいか。

⇒（教育委員会）はい。それを目指して取り組みたいと考えている。

○（保護者）放課後子ども教室や大芦小学校で実施していた地域での取組について、統合後も引き続き行ってもらいたい。

⇒統合前の交流授業についてだけでなく、統合後の地域を超えた交流授業等の実施の有無についても統合準備委員会にて話し合っている。全てをそのまま残せるわけではないが、できること、できないこと、地域の方に引き続きお願いできるのかを検討していく。

○統合後の吹上小学校の学校規模、一クラスあたりの児童数について、統合が決定された後に児童へ伝えて

もらえるのか。

⇒同じ学年同士で交流授業を実施していることから、子どもたちは事前に学校やクラスの規模感というのは把握できるものと考えている。

○（保護者）吹上小学校への通学路は、どのあたりをイメージしているのか。駅前通りは途中まで歩道がきれいに整備されているが、信号の先は狭くなっているし、信号がない交差点もある。対して、朝の通勤の時間は速度を出している車も多い。

また、大芦神社付近においても歩道が整備されておらず、危ないと感じている。現段階で、このような通学路が良いのではないかという案があるのであれば教えてほしい。

⇒（教育委員会）今の段階では何も決まっていらないが、実際に通学する日までに、教職員、保護者、教育委員会等で話し合っって安全な通学路を決定することになる。その中で、どうしてもここを通らないと小学校に通えない、すごく遠回りになってしまうという箇所があれば、歩道整備や横断歩道の設置の検討を行う。

小谷小学校では実際にそのような検討のもと、道路改良、横断歩道や街灯の設置等を実施している。

○（保護者）統合が決まれば、通学路の安全に関する工事等も行われるということか。

⇒要望を踏まえ、関係機関で検討し、実施する。

○（保護者）令和9年4月1日統合の場合、3年生は6年生になったタイミングで統合となる。6年生の最後の1年間だけ吹上小学校の校歌を歌うことに少し抵抗がある。

もちろん、6年だけ残るわけにいかないし、仮に統合年度が後ろにずれても、どこかの学年がそのような立場になってしまうことは分かっている。

○（保護者）スクールバスについて、直線距離で2 km はないが、土手際から吹上小学校まではそれなりの距離がある。運行を検討してもらえないのか。

⇒（教育委員会）他地域において、直線距離で約2 km の距離を徒歩で通学している児童もいる中で、大芦地域だけスクールバスを特別に運行することは難しい。

○（保護者）小谷地域では、徒歩通学、スクールバス通学、それぞれで役員を選出し、通学班や通学路を決めるという話を聞いた。

大芦小学校では、学校が通学班、通学路定め、その後PTAが精査し、学年、自宅同士の距離が均一になるように、学校と保護者が協力して決めている。

吹上小学校は、子ども会が通学班を決めているということを聞いたが、どのように決定しているのか。

⇒（教育委員会）吹上小学校では、PTAの総務部で通学班、通学路を定め、その後、校外指導部で立哨箇所を決めていたとの認識。もちろんゼロから決めるのではなく、前年度の通学班をベースに新入学児童を追加している。

仮に、大芦小学校が統合した場合にも、現在の通学班をベースに決定していくものと想定している。

○（保護者）その話し合いには、教育委員会の方も参加してもらえるのか。

⇒（教育委員会）小谷小学校と吹上小学校の打合せの際は参加させていただいたが、事前に学校と保護者で相談し、すでに大枠が決められていた。

大芦小学校のときとは異なり、保護者が案を出して、決めていくことが想定されるが、統合の際に配属される統合加配の教員や教頭、主幹教諭と話し合いながら進めていくのではないかな。

○（保護者）大芦地域だけで通学班を編成するのか。すぐ隣に小谷地域等もあるが、一緒の通学班になることはないのか。

⇒（教育委員会）別の地域の通学班と一緒にすることもある。大芦地域だけで、児童数がいれば一緒になる必要はないし、児童数が確保できていなければ、隣接する地域と一緒に通学班を組むことになるかもしれない。そのような検討についても、統合が決まった後、約1年間をかけて行いたいと考えている。

○（保護者）学童はどうなるのか。大芦学童は継続されるのか。また、吹上小学校の学童に入室する場合、全員が入室するキャパシティはあるのか。

⇒（教育委員会）鴻巣市では、基準に満たない場合、入室できないことはあっても、いっぱい入室できないということはない。いっぱいなのであれば、入室できるように場を整える。

放課後児童クラブの存続というのが学校と連動しているのは事実。笠原では、極少数になってしまったので廃止。常光は1桁になるまで続行しようということで担当課と保護者の話し合いがされ、1年間だけは継続となったが、2年目の令和7年度は廃止となった。

小谷学童は民設民営なので、市が廃止を決めるものではないが、結果として、小谷学童は存続する。学校からの距離があるので、小谷学童、学校、教育委員会、こども応援課といった関係機関で調整し、一時的にスクールバスを利用して小谷学童まで送迎を行うことになった。あくまで学童側がバスを用意できるまでの措置としている。

学校の統合が決まり次第、担当課と放課後児童クラブ利用保護者等で意見交換した後に決定することになる。

○（保護者）大芦放課後児童クラブが残った際に、学校からバスを運行するかというのは、放課後児童クラブの存続が決まってからの話になるのか。

⇒（教育委員会）はい。

○（保護者）小谷学童のバスは利用料金がかかるのか。

⇒（教育委員会）来年度については、利用料金はかからない。それ以降については、バスの利用料金という名目で徴収しなくても、小谷学童の利用料金に含めて徴収する可能性もあるし、利用者を増やすために、小谷学童側が負担することも考えられる。教育委員会では把握していない。

○（保護者）消耗品等で何かお金がかかるものはあるのか。

⇒（教育委員会）体操着等は支援している。家庭によって、必要な体操着の数等は異なるかもしれないが、これまで足りないと言われたことはない。

○（保護者）現時点で児童数がでているのであれば、各学年のクラス数を教えてもらえないか。

⇒（教育委員会）仮に令和9年度に統合した場合、1年：3クラス（86名）、2年：3クラス（84名）、3年：3クラス（74名）、4年：4クラス（112名）、5年：3クラス（101名）、6年：4クラス（110名）となることを想定している。

○（保護者）吹上小学校のキャパシティに余裕はあるのか。転入生には対応できるのか。

⇒（教育委員会）対応できる。

○（保護者）大芦小学校では6年生のときに成長報告会といわれるものを実施しており、昨日、拝見したが非常に感動した。統合後、大芦小学校時代の思い出も含めて、卒業制作を行うのか。それとも、吹上小学校に統合された時点からとなるのか。

⇒鴻巣中央小学校では、卒業に関する役員を統合前の保護者たちで組織し、活動していると聞いている。例えば、笠原地域では、今年度は、卒業に合わせて旧笠原小学校にて集合写真を撮るようなイベントを実施すると聞いている。

○（保護者）大芦小学校の児童を各クラスにどのように分けるのか。1クラスにまとめるのか、それとも均等に分けるのか。何かしらの配慮はあるのか。

⇒これまでの統合においても、笠原や常光小学校の児童があまりに少人数とならないように配慮している。例えば、児童数が8人の学年を3クラスに分ける場合、各クラスに均等に分けるのではなく、2クラスに4人ずつ編成するといったことが考えられる。しかし、8人を1クラスにするということは考えられない。統合後、友人関係も当然変わっていくので、かためすぎてしまうのも良くないと考えられている。

○（保護者）吹上小学校はボール遊びができないという話を聞いたが事実なのか。

⇒（教育委員会）ボール遊びは禁止されていないと思われる。

○（保護者）サッカーは禁止という話を聞いたが、これは事実なのか。

⇒（教育委員会）学校によって、ルールは設けられている。詳細は学校に確認してみないとわからないが、人数が多く校庭で何もできないということはない。

もちろん、大芦小学校の校庭はとても広いので、現在と同じようにはいかない部分は多々あるかもしれないが、何か不便があるということはないと思われる。

※後日、吹上小学校に確認。サッカーゴールは設置されていないが、サッカー自体は禁止されていない。

○（保護者）大芦小学校の跡地について、閉校後、完全に使用しなくなるのはもったいない。大芦小学校を使用して体育の授業を実施するようなことはないのか。

⇒（教育委員会）移動の時間を踏まえると難しい部分もある。また、使用しなくても、授業が十分成り立つことから、これまでの統合の例では使用したことはない。

○（保護者）最短で令和９年度ということだが、子どもの気持ち、大人の気持ち、色々な感情が錯綜している部分があるが、統合年度を変更することはないのか。

⇒統合までの準備時間を考えると、令和８年度に早まることはない。可能性として、遅くなることはあるが、令和９年度の統合に向けて取り組みを進めていきたいと考えている。